東京外国語大学ワークショップ（2010年12月17日）

台湾に渡った日本語の現在
－リンガフランカとしての姿－

簡　月真
（東京大学特別研究員・国立東華大学副教授）

1

海を渡った日本語
－百年前に遡って－

2

「国語」（日本語）教育

〈初等教育〉

日本人	－	小学校
閩南人・客家人	－	公学校
行政区域内原住民族	－	（蕃人）公学校
行政区域外原住民族	－	（蕃童）教育所

※1922年、蕃人公学校が公学校に改称
※1941年、小学校・公学校が国民学校に改称

〈社会教育〉
・国語練習会、国語普及会
・国語講習所、簡易国語講習所

3

日本語の普及

■1940年の日本語普及率：**30。18%**（国勢調査の結果・台湾省政府主計處1953『臺灣第七次人口普查結果表－附民國三十三・三十四年臨時戸口調查資料－』）

■1942年の国語解者率*：全人口の**58。02%**（台湾総督府1944『台湾事情昭和十九年版』）

■1944年の就学率：**71。31%**（台湾総督府1945『台湾統治概要』）

➢これらの数字は為政側の統計。実際の日本語能力や日本語の使用頻度については不明。
➢しかし、日本語に接し、日本語が話せる人が増えたことは確かであろう。

*註）国語解者率：公学校および国語普及施設の在学生・卒業生

4

在台「内地人」（日本人）

■ 出身地：日本人の約70％が西日本出身者。
人数の多い順に鹿児島、熊本、福岡、広島、
佐賀、長崎、山口となっている。
（台湾総督官房臨時国勢調査部1937『昭和十年国勢調査結果表』）

■ 農業移民村：官営移民村13　（1942年時点）
私営移民村 5
自由移民村 3
（台湾経済年報刊行会1942『台湾経済年報』）

5

日本語と台湾諸語との接触

① 現地語と日本語とのバイリンガルの発生
〈日本語を話す現在の高年層〉

② 現地語の中への日本語要素の借用
〈主に名詞の語彙を中心とする〉

③ 現地語と日本語の接触による新しい言語の形成
〈台湾東部に存在する宜蘭クレオール〉

6

台湾高年層の日本語

- 半世紀以上も前に習った日本語が、
実際にどのように使われているのか？
その日本語はどのような特徴を持っているのか？
- 接触言語学の観点から見て興味深い研究課題。
- 台湾日本語のような、半世紀という長きにわたって維持されてきた第二言語の存在は世界的にも貴重な言語現象。
- しかし、話し手の高齢化に伴い、消失しつつある。

7

台湾高年層の日本語の研究

■ これまで、台湾における植民地時代の日本語教育に関する史的研究は盛んに行われてきた。

➢ しかし、日本語そのものに関する考察はほとんどなされていなかった。

■ 高年層が話す日本語は
日本の植民地統治による歴史的産物、
「正しくない」「標準的でない」「中途半端」「乱れ」で、
日本語教育の観点から見て好ましいものではないし、
学術研究の対象にはならない
とみなされてきたからかもしれない。

8

台湾に渡った日本語のいま

9

図1　台湾高年層の言語生活

話者・EGL・年齢・性 ＼ ドメイン		配偶	兄姉	弟妹	子供	ま ご	同高	異高	同中	異中	同若	異若	祈り	暗算	買物
Y	アミ・80・女	☆	○	○	○	◎	○	★	○	✪	◎	●	○	＊	✪
T	アミ・78・男	☆	☆	☆	○	◎	○	★	○	✪	◎	●	☆	＊	✪
K	アミ・69・男	☆			○	○	○	✪	○	✪	◎	●	○	○	❖
C	閩南・77・男	☆	○	○	○	◎	☆	★	○	✤	○	●	○	☆	◐
L	閩南・72・女	☆	○	○	○	◎	○	★	○	○	◎	◎	○	☆	○
S	閩南・70・男		☆	○	○	○	○	※	○	❖	○	◎	○	＊	○
H	客家・70・女	○	○	○	○	●	○	★	○	●	●	●	○		●

*EGLはethnic group languageの略。
*表では話者をEGL別に年齢の高い順に並べた。
*年齢は2003年現在。
*ドメインはFishman（1964）において提唱された「参与者」「場所」「話題」の3つの要素から成り立つ抽象的な概念である。表中の「配偶」は配偶者，「同高」「同中」「同若」は同じEGLを話す高／中／若年層隣人，「異高」「異中」「異若」は異なるEGLを話す高／中／若年層隣人のことを指す。

凡例	
母語（ア／閩／客）	○
北京語	●
日本語	★
母＞北	◎
母＞日	☆
日＞母	＊
日＞ア	※
北／日	✪
北／閩	◐
北／日／ア	❖
北／日／閩	✤

母：母語（＝EGL）
ア：アミ語
閩：閩南語
日：日本語
＞：前者を多用
／：併用

Fishman、J.（1964）Language maintenance and language shift as a field of inquiry. *Linguistics* 9.
簡月真(2005)「共通語として生きる台湾日本語の姿」『国文学解釈と鑑賞』70-1

10

10

日本語の使用ドメイン

(a)〈母語を異にする高年層隣人〉・〈母語を異にする中年層隣人〉・〈買物〉といった異なる言語集団の高年層・中年層との接触場面

(b)〈配偶者〉・〈兄姉〉・〈弟妹〉等家族との会話

(c)〈祈り〉・〈暗算〉といった心内発話

11

台湾日本語の調査

- どの言語にもバリエーションがある。
- 台湾日本語の場合：
  リンガフランカ（共通語）という限られた機能
  ⇒　いっそう混質的な状況を呈する
- 一見混沌としたバリエーションから、規則性を見出していく。

12

調査方法

- 変異理論の考え方を参考に、
  話者の日本語能力による違い
  同一話者によって切換えられるスタイルの違い
  という2つの側面からのアプローチを用いた。

- 談話収集
〈LFドメイン〉：日本語がlingua francaとして用いられるドメイン
〈NSドメイン〉：日本語native speakerの調査者が面接調査を行うドメイン

13

〈LFドメイン〉　〈NSドメイン〉

14

14

リンガフランカとしての日本語

- 談話1　ブヌン語話者－アミ語話者
- 談話2　アミ語話者 － 閩南語話者

15

台湾日本語の特徴

16

台湾高年層の日本語の特徴

(a)西日本方言の要素の使用
(b)台湾諸語の要素の使用
が観察される。
また、変容のあり方としては、
(c)言語構造面と言語行動面の単純化
(d)日本国内の言語変化とパラレルな変化
が明らかになっている。

17

西日本方言の要素の使用

- 西日本方言的な語彙や文法形式：
（野菜を）炊ク、足ル、オル、チガウ、ン、
トル（アスペクト形式）、～テカン（～ていかん）等
- 台湾に在住していた日本人の約70％が西日本出身者だったことの影響であろう。

18

否定辞の使用

表1　台湾高年層の否定辞

	非五段動詞	五段動詞
ナイ	307（100％）	211（45。6％）
ン	0（ 0％）	252（54。4％）

- (a)非五段動詞（一段・カ変・サ変動詞）の場合、ナイは使われるが、ンは使われない。
(b)五段動詞の場合、ナイとンが両方使用されている。
- ン：五段動詞のみ。

簡月真（2006）「台湾残存日本語にみられる否定辞『ナイ』と『ン』－花蓮県をフィールドに－」『日本語科学』20

19

他地域での日本語変種の否定辞使用

表２　ボリビア日系人の否定辞

	非五段動詞	五段動詞
ナイ	53（100％）	43（59。7％）
ン	0（0％）	29（40。3％）

↓

〈非五段動詞でナイを専用、五段動詞でナイ・ンを併用〉

- 非五段動詞においてンが使用されない。
- 台湾の場合と同様。

簡月真2010「台湾日本語の諸相」『日本語学』vol。29-6

20

他地域での日本語変種の否定辞使用

表3　奄美方言の否定辞

	非五段動詞	五段動詞
ナイ	204（93。2%）	128（78。5%）
ン	15（6。8%）	35（21。5%）

表4　北海道・新十津川方言の否定辞

	非五段動詞	五段動詞
ナイ	54（71。1%）	107（39。1%）
ン	22（28。9%）	167（60。9%）

↓

非五段動詞において、使用率こそ異なるが、
ナイの使用率が高く、ンの使用率が低い。

21

なぜ非五段動詞にンが使用されない？

- 後接する要素の予測性がかかわっているのではないかと思われる。
  - ・五段動詞の未然形（ワカラ）：＋否定（ナイ・ン）
  - ・一段動詞の未然形（起キ）：　＋否定（ナイ・ン）、肯定（ルやマス）、過去（タ）、意志（ヨウ）等
  - ・聞こえ度の弱いンが避けられやすいのではないか。
  - ・ただし、このことの妥当性についてはさらに検証する必要がある。
- 若年層の関西方言：
  一段動詞の否定形にンが使用されない（ヘンが使われる）。
  肯定・撥音便形（例えば見ンネン（見るんだよ））と～ン否定形との同音衝突を回避するため。
  - ・しかし、台湾高年層の日本語には肯定・撥音便形の使用は観察されていない。要因が異なると考えられる。

22

台湾諸語の要素の使用

- 人称代名詞gua・li（閩南語）、妻を意味するfafahi（アミ語）等

（1）K：え、それで、guan ノ（私の）a-ma（おばあさん）お嫁あ、△（地名）にお嫁行った。
〔K：1934年生・男性・アミ語母語話者・花蓮県在住〕

（2）C：ほ。うん？gua（私）あの時、あの、平戦した時は、まだ十八チガウhõ。
T：チガウ。li（あなた）二十一歳、停戦後は。
〔C：1926年生・男性・閩南母語話者・花蓮県在住〕
〔T：1925年生・男性・アミ語母語話者・花蓮県在住〕

23

閩南語人称代名詞の使用

- 閩南語人称代名詞
  - ・閩南語話者以外の話者によっても使用されている。
  - ・閩南色が薄れて、日本語の一要素として溶け込んでいる。
- 日本語人称代名詞：形式が多く、運用規則が複雑。
  閩南語人称代名詞：形式が少なく、運用規則が単純。
  ◎労力の点で経済性が高い
  ◎単純化をはかろうとする心理的要因
- 日本語の人称代名詞は性・数・格などの文法範疇が形式上区別されず、開かれた語類であるため、外来の要素が流入できるということもかかわっている。

簡月真（2006）「台湾高年層の日本語にみられる一人称代名詞」『日本語の研究』第2巻第2号

24

言語構造面の単純化－可能表現の場合

(3) L：これlan（われわれ）なんか言わないなったら**書クデキナイ**。あ、**書クデキナイナッタラ**、**試験スルデキナイ**。

〔L：1931年生まれ・女性・閩南語母語話者・花蓮県在住〕

(4) R：んん、今、あのー、KUO-YU（国語）なんかはテレビで漢字を見ると、

H：そう。わし字でもあまりあれーすこしすこし練習。で、わしでも**書クデキナイ**。

〔H：1933年生・女性・客家語母語話者・花蓮県在住、R：調査者〕

(5) O：役場の職員が訪問に来ていた）あ、この女上等ね。ひっと（人）**PANG-MANGスルデキル。**

〔O：1942年生・男性・ブヌン語母語話者・花蓮県在住〕

25

- 日本語能力の低い話者：
  - ・一段動詞・五段動詞の語幹それぞれに接尾辞−rareru/−eruが後接する派生動詞を使いこなせない。
  - ・「動詞ル形＋デキル」という新しい表現を用いている。

- 統合的構造（派生動詞）→　分析的な構造　【分析化】
- 活用の種類による可能形式の使い分けがなくなる
  ＜五段・一段・カ変・サ変＋デキル＞
  透明度が高い、形態論的な処理も要しない　【単純化】

註：「誰も買うできる」(2回以上) 2010年12月4日NHK“地球ラジオ”
福岡在住のオーストラリア出身の英語母語話者による発話。

26

「できる」の汎用

(6) C：wa、工兵だったらきついlah hõ（だろう）。

T：きついよ、工兵は。あのー、淡水河泳ぐよ。オ、**デキル**（泳げる）よ。

〔C：1926年生・男性・閩南母語話者・花蓮県在住〕
〔T：1925年生・男性・アミ語母語話者・花蓮県在住〕

(7) Y：あの時（ビンロウを）噛むよ。今もう**デキナイ**（噛めない）。歯みんな抜けてる。

〔Y：1923年生・女性・アミ語母語話者・花蓮県在住〕

- 語彙面での不足を補うストラテジーの一つである。
- 語彙面での単純化ともいえる。

簡月真（2010）「台湾高年層の可能表現」『地域言語』21

27

言語行動面での単純化

- 〈LFドメイン〉 ➡ 〈NSドメイン〉
  (a) 閩南語人称詞が日本語人称詞に切換えられる
  (b) 否定辞がンからナイに切換えられる
  (c) デキルの汎用がなくなる
  (d) 普通体が丁寧体に変わる
  より標準語に近い日本語に切換えられている。

- ただし、日本語能力の低い話者にはこうした切換えが見られない。

↓

言語構造面の単純化と連動して、言語行動面においても単純化（monostylism）が漸次的に進行しつつある。

28

日本国内の言語変化とパラレルな運用

(8) A：ん。あの一子供、あの一番大きい子供はねーあの、あそこ一年生の時、今度わっち（私）のどくしんだよ（意味不明）あの時。あの時わっちの子供、十名おる**でしょ**。で、やっぱりまだあの、歩けない人あるよ。ただあの、あの、なにこうする手で、一番、あの小さいの。して、今あれあのー、△で SHANGPAN（仕事）してるよ。
R：へー、十人。
A：あのー、女、おんなー三名と、あの、わっち、もうふたり死んだ**でしょ**。して、あの、男がち、あのふたり死んで今八名だけ。女三名と、あの、男五名。わっち、お、おさあい（「お産」を言おうとする）、生まれた子供はや、十三名よ。
R：十三人。
A：そう。十三人。

〔A：1930年生・女性・ブヌン語母語話者・南投県在住、R：調査者〕

29

「でしょ」の新用法ー新情報認知要求

「でしょ」の用法
1〈推量〉
2〈確認要求〉
3〈新情報認知要求〉★

◆〈確認要求〉：聞き手が知っている（はずの）情報を提示して確認や同意を求めるものである。

◆〈新情報認知要求〉：初対面の聞き手が知り得ない新情報を提示する。

簡月真（2009）「台湾日本語にみられる『でしょ』の新用法」『社会言語科学』11巻2号

30

東アジア残留日本語の〈新情報認知要求〉

(9) VSA：向こう行った時ね、やっぱりほら、お母さんと離れたことない**でしょう**。だもう寄宿舎ってね、ドームね。そこに行ったらもう自分でね十、八、九、十、十一、十二、十二才**でしょう**。自分で洗濯、今まで洗濯してなかった。私がね。[略]
〔VSA：生年不詳・女性・チャモロ語母語話者・サイパン在住〕

(10) KT：[略]「私は絶対にソウルを離れない」と、そう壁に書いてあるから、それを信じてソウルまで行ったんですよ。そしたらソウルで3日間寝たらね、みんなぼつぼつ南に行く**でしょ**。それでその時また改めて南に下がって、トロッコ、蓋のない汽車、あれに乗って来たんですよ。乞食じゃ別にないですよ、3日間黒い煙にふかれて、目だけぱちぱちして垢だらけで。そしたら何か餅買う**でしょ**、そして食べたその手、手に残ってる餅だけ捨てて、それ食べて。[略]
〔KT：1927年生・女性・朝鮮語母語話者・アメリカ在住〕

31

日本国内の〈新情報認知要求〉

- 近年の日本語でも次のような「でしょ」の使用が指摘されている。
  (11)　（初対面の人に対して）私ってイタ飯が好き**でしょ**。だから、よくそのお店に行くんです。

「でしょ」で新情報導入　➡　談話展開

- 対話では聞き手と話し手との間に認識のギャップがあると、すなわち同等の情報量を持っていないと話が円滑に進まない。
  ↓
- 後続させる発話内容の前提を提示して土台を築く。
- 会話の前提を提示するために、「でしょ」の「確認を求める」という機能を前面に出してその用法を拡張させ、新情報の認知を促しながら話を進めていくというストラテジーが採用されたのではないかと考えられる。

32

日本国内の変化を先取りする

- 戦前の記述：　台湾方言が形成されつつあり、その中には例えば命令形として「見レ」「起キレ」「受ケレ」といった使用が広く観察される（川見駒太郎1942「台湾において使用される国語の複雑性－附、方言の発生－」『日本語』3）。
- 真田（2009）：こうした現象を、台湾高年層の日本語話者が日本語の変化を先取りしたものととらえる。
  - 一段活用動詞の命令形『見ろ』『起きろ』が『見れ』『起きれ』のように五段活用化する傾向は、九州西部のほか、東北地方の日本海側、沖縄など列島の周縁部に認められるものである。近年は中部や近畿周辺部の若者たちにもこれが認められるようになった。
  - このような文法体系の単純化（統合）が進行する背景として、中央語（標準語）に対する規範意識の弱さとともに、旧態を改革しようとする志向性がその地には内在していると考える。この点で植民地での日本語はまさにその先駆けなのであった。

真田信治（2009）『越境した日本語－話者の「語り」から－』和泉書院

33

台湾日本語にみられる変容

- 台湾人話者同士の間で共有するスタイルが形成。
- 日本語の変化しやすい部分を示してくれる。
- 日本国内の言語変化を先取りするような変化を起こすこともある。

34

接触言語学の探究

- **Englishes：英語の多様性**
- **Japanese**s：日本語の多様性

35

♪

A Merry Christmas！

36